

小樽・後志地域における北前船の歴史的価値の観光資源化 プロジェクト代表者:高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、小樽と後志地域に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域観光資源化を推進し、小樽と後志地域をつなぐ新たな広域連携・観光ルートを開発することです。昨年度は、新資料発見(船絵馬など)により小樽・後志地域の北前船による歴史的關係を明らかにし、ツアーやパネル展等により歴史文化による広域観光を推進できました。

●本年度の事業内容

- ①後志地域を中心に、北前船ゆかりの史跡や資料等の調査を実施します。
- ②講演、シンポジウム、パネル展、デジタル・アーカイブ拡充等の情報発信により、地域社会に成果を還元し、地域観光資源としての定着化を目指します。
- ③北前船関連の全国学会および各地の地域振興事業に協力・情報提供を行います。
- ④地域志向型教育プログラムに成果を組込み、地域の歴史文化と地域資源への理解を深めます。

2. プロジェクトの進捗状況について (~H28.10)

●調査研究

- ①北前船から北洋漁業への転換期に関する資料を発見しました(択捉島水産会関連写真)。新聞報道により、北海道と北前船の関係をいまに伝える貴重な資料と評価されました。(北海道新聞:平成28年6月23日付、朝日新聞:平成28年9月26日付)
- ②後志地域に北前船のゆかりを示す「笏谷石」が多数分布していることを確認しました。福井県足羽山でのみ産出する笏谷石は北前船に積み込まれ、各地に運搬され建物や墓標などに使用されていますが、これまで北海道では道南でしか確認されていませんでした。

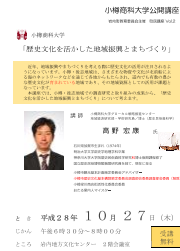
●情報発信による地域観光資源化(小樽)

- ①講演「北前船と小樽」(和と洋の祈り、平成28年9月10日)
北前船をテーマにしたイベントで講演しました。
会場の小樽市能楽堂は佐渡出身の岡崎家による建造。佐渡産神代杉が使用され、北前船を通じた海のネットワークを象徴する小樽の建物の一つです。朝日新聞:平成28年9月26日付
- ②講演「ホンモノの小樽とは」(小樽観光ワークショップ、平成28年10月1日)
小樽観光について考えるワークショップの講演会で、「ホンモノの小樽」を体感できる観光資源として石造倉庫や船絵馬など北前船ゆかりの地域資源の意義を紹介しました。



●情報発信による地域観光資源化(後志ほか)

岩内町公開講座「歴史文化を活かした地域振興とまちづくり」(平成28年10月27日)岩内をはじめ後志地域と北前船のゆかりを紹介。地域振興に活用する方法について講演しました。



3. 今後の取組予定について

- いしかり市民カレッジ「北前船ものがたり」(平成28年11月30日)
- シンポジウム&パネル展「北前船と小樽・後志」(平成29年1月)
- 雪あかりの路対談「北前船と小樽」(平成29年2月予定)
- 北の文化探訪(小樽・後志・札幌のツアーと講演・演奏会、平成29年)
- デジタルアーカイブの拡充(平成29年3月)

岩内講座ちらし



北海道新聞:平成28年9月24日付